

# 社会貢献活動

人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む積水ハウスは、企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、本業を通じた活動はもちろん、地域と社会の一員として、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みをつくり、さまざまな社会貢献活動を進めています。

## 社会貢献活動の4つの方針



当社グループは、「次世代育成」「環境配慮」「住文化向上」「防災・被災地支援」を柱に、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、地域に根差した活動を続けています。

次世代育成	環境配慮	住文化向上	防災・被災地支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員のボランティア活動</li> <li>● チャリティー参加</li> <li>● 国際協力</li> <li>● 緊急支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO・NGOとの協働</li> <li>● 市民活動の支援</li> <li>● 教育機関と連携した教育支援活動</li> <li>● 事業活動を通じた社会貢献</li> </ul>	
企業理念の根本哲学「人間愛」			

## 「エコ・ファースト」、「キッズ・ファースト」としての取り組み

### 環境教育プログラム、出張授業の実施

地球温暖化防止など環境保全を推進するためには、次世代を担う子どもたちへの啓発活動も大切です。「エコ・ファースト企業」としての三つの約束である「CO<sub>2</sub>排出量削減」「生態系ネットワークの復活」「資源循環の取り組み」をテーマに、暮らしの中でできる省エネや生態系保全、資源の有効活用の大切さを学ぶ三つの体験型教育プログラムを小学校での出張授業やイベントなど、全国各地で実施しています。



家の断熱性能について学ぶ「いえエコロジー」セミナー

出張授業プログラムの一つである「いえエコロジー」セミナーは、実験

やクイズなどの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしのかかわりを学び、「住宅」という身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促す内容となっています。

「積水ハウス エコ・ファーストパーク」(茨城県古河市)では、「エコ・ファーストの約束」で示した三つの環境テーマへの取り組みが体感できるほか、子どもたちが地球環境を守るために住まいが果たす役割がたくさんあることを楽しく学ぶことができます。



「積水ハウス エコ・ファーストパーク」(風の家)

### 「新・里山」での取り組み

積水ハウスの本社が所在する新梅田シティは、「梅田スカイビル」を中心とした大阪の代表的なランドマークで注目のエリアとされています。その北側に位置する「新・里山」(約8000m<sup>2</sup>)では、当社の生態系に配慮した取り組みである「5本の樹」計画の考え方に基づき、雑木林や竹林、棚田、野菜畑、茶畑などを配し、失われつつある日本の原風景「里山」を都心部に再現しています。2006年にオープンして以来、多様な植物、鳥や蝶など



「新・里山」を西側から望む

多くの生き物を育み、生態系を感じることでできる場として市民やオフィスワーカーに親しまれています。

子育て社会を応援する「キッズ・ファースト」を目指す当社では、地元の小学校や幼稚園と連携し、田植えなどの農作業体験を「新・里山」で実施。これまでの取り組みが評価され、「第34回緑の都市賞」内閣総理大臣賞<sup>※</sup>を受賞、SEGES「都市のオアシス」<sup>※</sup>に認定されています。

<sup>※</sup>主催：公益財団法人都市緑化機構



小学生による「新・里山」での田植え体験

## 「積水ハウスマッチングプログラム」～社会課題の解決を担うNPOなどを支援～

従業員と会社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(加入従業員数:約5200人)を2006年度に開始し、社会課題の解決を担うNPOなどの団体を支援しています。

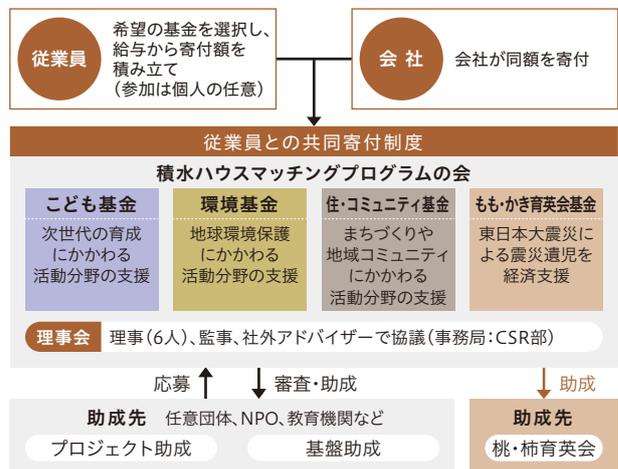
この制度は、従業員が給与から希望する金額(1口100円)を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」「環境基金」「住・コミュニティ基金」「もも・かき育英会基金」の4基金を設置。会員代表で構成する理事会において支援先を決定しています。

2019年度は「こども基金」「環境基金」「住・コミュニティ基金」計31団体に3024万円を助成。また、「もも・かき育英会基金」では、2018年度に1430万円(累計:9680万円)を東日本大震災による震災遺児を経済支援する「桃・柿育英会」(実行委員長:建築家・安藤 忠雄氏)



へ寄付しました。4基金でこれまで延べ317団体に3億円を超える助成を実施しています。

### 「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



### 2019年度プロジェクト助成(団体からの申請プロジェクトに対する助成)

#### こども基金(16団体1690万円)

- NPO 法人 アスペ・エルデの会
- 認定NPO法人 アトピッズ地球の子ネットワーク
- 認定NPO法人 ESA アジア教育支援の会
- NPO 法人 イカオ・アコ
- NPO 法人 関西 NGO 協議会
- 子育てメイト さくらんぼくらぶ
- NPO 法人 コドモ・ワカモノまちing
- 認定NPO法人 CPAO
- NPO 法人 Japan Hair Donation & Charity
- 認定NPO法人 3keys
- NPO 法人 Nagomi Visit

- 認定NPO法人 日本レスキュー協会
- 認定NPO法人 フードバンク山梨
- 認定NPO法人 ファミリーハウス
- NPO 法人 みやぎ・せんだい子どもの丘
- NPO 法人 もりの学舎自然学校

#### 環境基金(12団体1110万円)

- 一般社団法人 あきた地球環境会議
- ウータン・森と生活を考える会
- NPO 法人 環境とくしまネットワーク
- NPO 法人 グラウンドワーク大山藪山
- NPO 法人 山村塾

※このほか、インフラ整備、活動の質の向上など、団体の今後の発展に期待して助成する「基盤助成」を実施

- 一般社団法人 自然エネルギー信州ネット
- NPO 法人 地球と未来の環境基金
- 認定NPO法人 トゥギャザー
- NPO 法人 フェア・プラス
- 真庭遺産研究会
- NPO 法人 緑のダム北相模
- NPO 法人 森のライフスタイル研究所

#### 住・コミュニティ基金(2団体210万円)

- 認定NPO法人 アサザ基金
- NPO 法人 パクト

### 「積水ハウスマッチングプログラム」助成団体との取り組み

毎年、「積水ハウスマッチングプログラム」で助成した団体へ向けて助成金の贈呈式を実施しています(エリア限定)。助成団体の近くにある当社事業所にて団体の活動内容を紹介するとともに、活動の認知を広げる取

組みを行っています。さらに、助成団体と当社との協働した取り組みを積極的に促進。互いにとって相乗効果のある企画を実施し、社会や地域に向けた活動をともに推進することで、地方創生にも貢献します。

#### 助成団体コメント こども基金

**助成内容:大阪母子医療センターへのセラピードッグ派遣**  
認定NPO法人 日本レスキュー協会(企画・広報 今井 雅子氏)

助成金により、2カ月に1回だった訪問回数が1カ月に2回に増え、より多くの子どもたちの元へセラピードッグと訪問することができました。病院側と共に掲げた「子どもたちのそばにはいつもセラピードッグがいる」という目標を実現するため、今後もたくさん子どもたちの元へセラピードッグと共に訪問できるようにまい進いたします。



#### 助成団体との協働事例 環境基金

**助成内容:「ちきゅう博士」誕生プロジェクト**  
一般社団法人 あきた地球環境会議

子どもたちの夏休みに、当社の秋田営業所「AKT 展示場」を会場として活用してもらい、ちきゅう博士誕生プログラム「第3回私のお城は未来Eco住宅」の体験会を助成団体とともに実施。

当日は、秋田市在住の親子が最新のエコ住宅を体験し、当社の営業・設計が案内役として参加しました。小学生とは思えないような、断熱についてなどの鋭い質問もあり、大いに盛り上がりました。



## 住文化・芸術文化発信拠点としての取り組み

### 「ダイアログ・イン・ザ・ダーク(DID)」と積水ハウスの共創プログラム「対話のある家」

情報発信拠点「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」(グランフロント大阪)で定期開催している「ダイアログ・イン・ザ・ダーク(DID)」との共創プログラム「対話のある家」は、関西唯一のDID常設会場として、2018年に5周年を迎えました。

DIDは、1988年にドイツで哲学博士アンドレアス・ハイネッケが発案し、世界41カ国以上で開催、800万人以上が体験した「ソーシャルエンターテインメント」です。



DIDを開催する「住ムフムラボ」

参加者は完全に光を遮断した空間(純度100%の暗闇)の中へグループを組んで入り、視覚障がい者のアテンドのもと、中を探検し、日常では得られない気づきやコミュニケーションを体験します。

当社では2013年の開設以来、世界で唯一「家」「家族」をテーマに展開する「対話のある家」として、季節に沿って家族や暮らしに焦点を合わせた独自プログラムを提供し、この5年で1万8000人以上が体験しました。参加者からは、「自分の『心』をつかって話すこの経験を今後伝えていきたい」など、人の声の温かさ、コミュニケーションの大切さ、視覚以外の感覚がはぐくむ「心地よさ」などについて多くの感想が寄せられています。来場者アンケートからも「また来たい」の項目が8割以上を占めるなど高い人気を得ています。

「生涯住宅」の思想のもと、長年にわたり取り組んできた「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を通じ、今後も「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、DIDを通じて対話する場を提供し、社会にとって価値ある体験を広げていきます。



(QRコード)  
「対話のある家」  
ダイアログ・イン・ザ・ダーク

### 新しい芸術文化の発信拠点「絹谷幸二 天空美術館」

芸術文化振興による社会創造を目指し、アフレスコ画(壁画の古典技法)の日本の第一人者であり、世界を舞台に活躍する洋画家、絹谷幸二氏の「絹谷幸二 天空美術館」を本社のある梅田スカイビル(タワーウエスト27階)に開設。2018年12月には開館2周年を迎えました。世界初の試みである絵画の世界に飛び込む3D映像体験が楽しめるほか、絹谷氏の色彩豊かな数々の絵画、彫刻立体作品を展示しています。



迫力ある3D映像



レンガに漆喰を塗って壁面をつくり、その上から絵を描くアフレスコ体験

2018年度は美術教育の普及活動に注力し、周辺地域の小学校と連携した美術鑑賞教育の実践や、月に一度のペースで開催するワークショップ「アフレスコを描く」を通じて、多くの子どもたちに絹谷氏の芸術への理解を深めてもらい、美術・芸術を通して元気になってもらうことを目的に活動を行いました。

また、美術館内では3回の特別展示を開催しました。いずれの特別展示も、初公開の作品を展示し、来館者数は前年度を大きく上回る6万1407人となりました。



「祝 飛龍遊々スカイビル」(彫刻)

#### 特別展示の内容(2018年度)

- 特別展示  
「平和へのメッセージ  
～情熱・元気・祈り～」
- 梅田スカイビル誕生  
25周年記念特別展示  
「天空夢譚  
～驚天動地の空中庭園～」
- 開館2周年記念  
特別展示  
「夢見る力～空想大劇場」

## 自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

自然災害による被害を防ぐこと(防災)、軽減すること(減災)は、住まう人の生命や財産、暮らしを守る事業を重視した戦略を推進する積水ハウスグループの社会的責任であると認識しています。

### 各地で発生した自然災害に迅速に初動対応

2018年は、台風や豪雨、地震など、日本全国でさまざまな自然災害に見舞われました。6月18日、大阪府北部を震源とする最大震度6弱の地震「大阪府北部地震」が発生。また6月28日から7月8日にかけて猛威をふるった「平成30年7月豪雨(西日本豪雨)」、9月に発生した「台風21号」など、全国各地に甚大な被害をもたらしました。

「大阪府北部地震」では、当社住宅に全半壊などの大きな被害はありませんでしたが、発生時間が出勤時間と重なったことから、通勤が困難になった社員もいた中、発生後速やかにカスタマーズセンターから被災地域への「安心電話\*」を開始。オーナー様の安否と建物の状況確認を実施しました。関西エリアのカスタマーズセンターを中心に他エリアからの応援も受けながら、点検や補修など復旧活動に尽力しました。

「西日本豪雨」では、当社住宅でも、中四国、九州などで床下・床上浸水被害を受けました。多数のオーナー様が避難されている中、各カスタマーズセンターから「安心電話」や「見守り訪問」を実施し、家具の搬出や床下清掃、内部解体などの復旧にあたりました。グループを挙げ、

併せて、自然災害が発生した場合の被災者の安否・被害情報の確認や支援体制の確立などに迅速に対応することも、住宅メーカーとして必要であると考えています。

延べ2400人以上で、床下・床上浸水などの被害に遭ったオーナー様宅の補修や泥だしに対応。1日も早く平穏な暮らしを取り戻していただけるよう、復旧活動に尽力しました。

「台風21号」による被害が特に大きかった近畿エリアにも、全国から応援に駆け付け、点検や屋根の復旧作業にあたりました。

※ 自然災害の前後にカスタマーズセンターより事前準備やアドバイス、状況確認の電話をオーナー様に差し上げるサービス



各地からも支援に訪れ、オーナー様宅の泥だしなどに尽力(広島)

### 全新入社員が被災地復興支援活動に参加

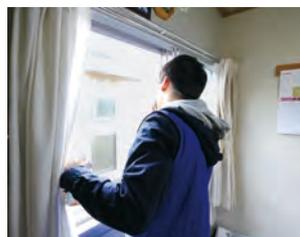
東日本大震災の翌年から毎年、新入社員が被災地復興支援活動に取り組んでいます。本活動は、被災地のニーズに基づく支援とともに当社の「企業理念」や「行動規範」に基づく相手本位の考え方・行動を身につけ、住宅事業の意義について理解を深めることを目的としています。本活動への参加者は7年間で累計3021人となり、2019年も約460人が参加予定です。

現地で活動するNPO法人と連携して、支援ニーズを聞きながら、「現地の方々に喜んでもらうために何がで

きるか」を考えて行動。東北では「雄勝ローズファクトリーガーデン」の移転作業に取り組み、仮設住宅・災害公営住宅では清掃活動を行いました。2017年からは、熊本地震被災地においても活動を開始。活動当時、運行停止となっていた南阿蘇鉄道の車両清掃に取り組み、車内の換気扇、机、窓の清掃を行いました。南阿蘇村の旧立野小学校体育館は震災前から廃校となっていました。震災時は避難所として活用。今後も緊急時に使えるよう、窓や壁、床などの清掃を行いました。



「雄勝ローズファクトリーガーデン」の移転作業



仮設住宅での清掃活動



南阿蘇鉄道の車両清掃



南阿蘇村の旧立野小学校体育館の清掃